

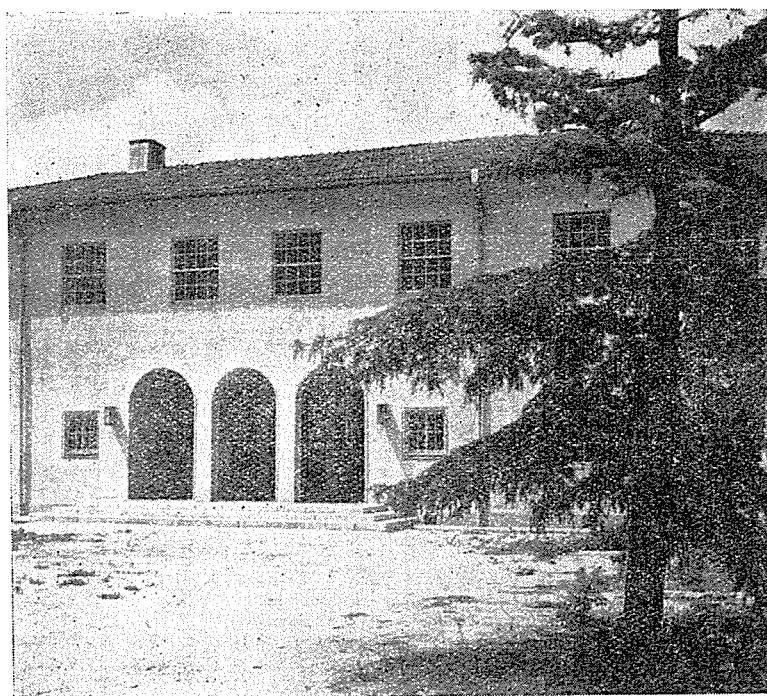
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, June 15th, 1950. —No. 232

# 關西大學學報

第 2 3 2 號

昭和 2 5 年 6 月



大 學 院 學 舍

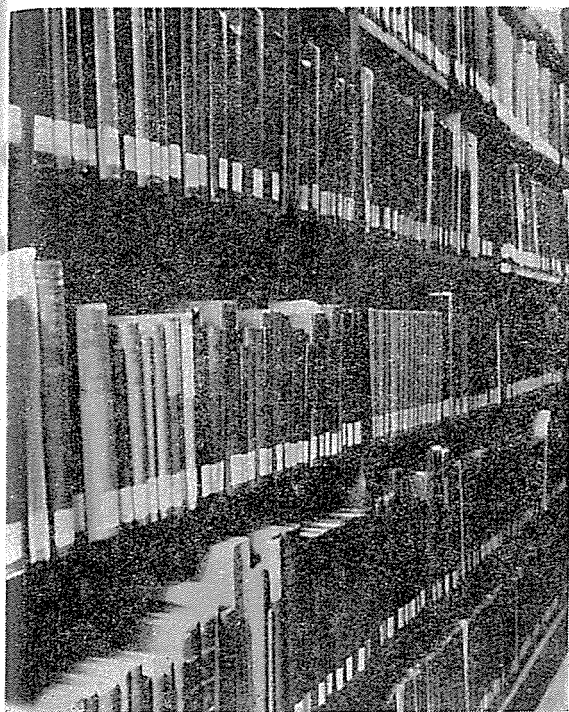
關西大學學報局

本學千里山  
圖書館所藏

## 細江文庫

研究者に公開

我が國英語英文學界の一權威故文學博士細江逸記氏は昭和四年春より同二十二年三月まで十九年間、本學文學部英文學科に、又專門部英語學科にその最も得意とされた英語學及びシエイクスピアの講義をつづけられた。  
博士は學者としては勿論教育者として尊敬すべき先生であつた。學問の深さに加ふるに行き届いた巧者な講義振りと高貴な人格から受ける感銘といつたものが一体となつて所謂名講義として深き感銘を幾多の學生に與えられた。  
博士は學生時代から苦學された方で、嚴父から遺産として漢和辭典と論語の二冊を受けられたのみで、今回寄贈していただいたこの膨大な文獻は博士自ら



書架に分類された細江文庫

文字通り苦心蒐集の結晶である。たばこ一本吸わず、酒一滴飲まず、趣味も、樂しみも総て読書の中に見出された純學究的學者で、學問の爲めには私生活を犠牲にされた。英語、英文學研究に必要な權威雜誌アングリア(一八七七年創刊)のバックナンバー全揃いを購入された時には、全財産を投じて入手されたと聞いている。研究の爲めに必要な書籍はあらゆる犠牲を拂つて次から次へと購入され研究されたので、この「細江文庫」はその一冊一冊、否一頁一頁に博士の學究精神がこもつてゐる貴重な文獻の集團である。半世紀に亘つて苦心蒐集された文獻は又大切に取扱われていた。書齋の書棚は全部ガラス張りである爲め埃やけせず、手垢はつかず新本當時そのまゝの姿で背の金文字が光つてゐる絢爛である。

博士は本學を最後の研究所と決定されていたので、二十二年二月下旬病篤く床に臥せられてからも関大への出講を常に口にせられ、侍医に一日も早く癒して貰いたいと語られていた。意識不明に陥られてからも関大のことを氣にせられていた御様子で「四月から関大の爲めに献身的にやるよ」を最後の言葉として三月十一日朝八時半、此國寶的學者は眠るが如く安らかに他界されたのである。嗣子正章氏は純眞明朗な科學者で嚴父の御意志を汲み「父が如何に苦勞して集めたかをよく知つてゐるので手放すのは忍び難い氣もするが、研究方面の違ふ自分が所持することは文化の死蔵になる。父の愛していた関大で利用してば父も喜ぶことでしょう」と博士獨特の研究を樹立されるに必要であつた英語學に關する文獻の大部分を本學に寄贈された。

本學理事會はこの美舉にいたく感激「細江文庫」を設置して永久に博士の偉業を記念し秘藏書千數百冊を保存することゝなつた。文庫中にはジョンソン辭典二卷(一七五五年版)アングリア。シエイクスピア、フオリオ版のフアクシミル。英國方言學協會の各方研究等洵に好學家の垂涎おくあたわざるものを含む。細江文庫の全目録はB5版百頁に上る大冊である爲め、博士の研究の主流をなす歴史的、方言的なものゝ内から珍らしい書物を主として選擇した主要目録を作成してゐる。

### 細江博士著作目録

「英文法汎論」(大正六年、泰文堂)「我が國語動詞の相を論じ、動詞の活動形式の分岐するに至りし原理の一端に及ぶ」(昭和三年、岡倉先生還暦記念論文集)「スベンサー フエヤリー・クイーン」(昭和三年、研究社)「英語動詞時制の研究」(昭和七年、泰文堂)「英語動詞叙法の研究」(昭和八年、泰文堂)「シエイクスピア ジュエリヤス・シーザー」(昭和九年、泰文堂)「デョー・エリオットの作品に用いられたる英國中部地方言の研究」(博士論文)(昭和十年、泰文堂)「シエイクスピア マーチャント・オブ・ベニス、マクベス」(昭和十二年、泰文堂)「シエイクスピア テンペスト」(昭和十三年、泰文堂)「精説英文法汎論」第一卷(昭和十八年、泰文堂)「平安朝文語文法の新研究」(昭和二十年、日本語教育振興會)

# 授権資本と無額面株式について

法学博士  
員外教授

## 西 本 寛 一

### 一、まえがき

現行会社法が、世界のもつとも進歩的な、そうしてそれはまた日本人みずからの手によつて、という誇らしさをもつて、はなばなしくわれわれの前にデビューしたのは、昭和十五年一月一日のことであつた。それから僅かに十年、朝令暮改という言葉が、そのまゝこれを承認し得ないとするならば、それはあまりにも短かい一生であつた。

後進國が、文明先進國のすぐれた法律制度を、不斷の努力によつてこれを継受しようとすることは、それはまことによろこばしいことがらには相違ない。それと同時に、吾々はまた、それ以外の政治的な他の意味合において、特定外國法の継受を余儀なくしなければならぬ場合のあることも、また知らねばならない。わが國法制が、終戦を契機として、かくもめまぐるしく英米法化の途をたどりつゝあることは、あるいはわが國民民主化のために、あるいは日本經濟再建のために、ということも、もとよりさることながら、それはまた当然に、敗戦國として負わねばならぬ必然の運命でもある。

それについても想い起すことは、第一次大戰後における獨逸法学界の當時の情勢である。戰に疲弊した獨逸經濟の復興は、米國金融資本に頼る以外に途はなかつた。しかも外資導入の受入態勢には、必然的に株式會社法の英米法系への接近を要請されたのである。け

れども獨逸學者の傳統的自尊心は、むしろ頑冥にまで近く、一國の法思想はその民族の自己性に根ざすものであり、獨逸株式法の諸原則の優越性は、外國投資家の前に無條件の屈服を許さないとして、頑強に主張し續けたのである。たゞ英米授権資本 (Authorized Capital) に対応するものとして、資本増加の一変態としての認許資本 (Genehmigtes Kapital) の制度を採用して、實質的な妥協はしたものの、無額面株式については、ついにこれを拒否するに至つたのである。

しかしまたわれわれは、世界の情勢にあまりにも頑冥であつてはならない。二つに分れたはずれかの方の圈内において、その協同生活をおくらなければならぬ現狀である以上、そうしてまた商法が世界の萬民法 (Das Handelsrecht ist ein modernes Jus gentium) として、國際的性格を有する以上、殊にはまた現下の日本經濟の復興が、米國資本に依存しなければならぬ現狀に鑑みると、今次の会社法改正の事業もまた日本再建の一翼を爲す一大建設事業であるといわなければならないのである。

わたくしはこの意味において、さきに國會を通過した改正商法中の「授権資本と無額面株式」とについて以下その大要を述べてみたいと考えるのである。

### 二、授 権 資 本

すべて大陸法系の株式會社にあつては、物的會社と

## 第二三三號 目 次

授権資本と無額面株式について……

西本 寛一(一)

ジャーナリズムの三態……中井 駿二(四)

学 内 報……(六)

通常協議員会(役員改選)……学位規定一部変更(文学博士号追加)……大學開講……学内人事異動……坂本憲三先生の表彰……尚七館改裝

昭和二十五年年度学科目担任表……(八)

学 生……(三)

千里山法律学会……社会学研究部……經濟研究部……映画研究部……演劇研究部……邦楽部……美術部……野球部……陸上競技部……相撲部……フエンスン部……拳闘部……ヨット部……(四)

校 友……(四)

大阪支部……石川支部……富山支部……福井支部……計理士及稅務代理士業界と本學校友の近況

海外彙報……(三)

千里山圖書館洋書新着圖書一覽……(二六)

細江 文庫……(表紙二頁)

しての資本團體性を重視し、その資本的基礎の確立の要請から、会社の設立に當つては、定款を以て資本の總額を確定するとともに、その資本の總額に対して発行する株式の總数は、必ずその設立に際してこれが引受を完了しなければならぬとする。いわゆる資本確定の原則 (Grundsatz des festen Grundkapitals) を厳守し、資本的基礎を危殆ならしめる程度の引受の欠点をもつて、会社設立無効の原因としているのである。

ところがこれに反して、英米法系においては、資本に対する觀念を異にする結果、大陸法系におけるが如き、峻厳な態度をもつて資本の確定に臨まず、むしろ資本調達機動性を重視し、これを実用化せんとするところに特色がある。

すなわち、アメリカ会社法は各州によつてかならずしも同一ではないにしても、發起人 (promoter) において定款を作成した会社資本の總額 (名目資本) を定め、会社設立人 (incorporator) は設立認可申請書 (charter application) を作成して、これを州務長官 (secretary of state) に提出すれば、州務長官においてこれを適法と認めたときは、これに認可の旨を記載して申請人に交付するのであつて、この認可の旨を記載した設立認可申請書は、すなわちそのまま設立認可証 (certificate of incorporation) となるのである。

かくしてこの設立認可証の交付により会社の設立は完了し、わが現行法におけるが如き、株式總数の引受株金の拂込及び設立登記等の如きは、会社設立の要件を爲さないものである。

すなわち、設立認可証に記載された「会社資本の總額」は、州務長官によつて取締役に對し株式の発行を授權された資本金の限度であつて、これを授權資本 (authorized capital) とわれ、この枠内において

取締役が発行し得る株式の總数を授權株式 (authorized capital stock) といわれるのである。

したがつて、各州法により多少の相違はあるにしても、会社の設立に際して、あるいはその後において、授權資本の枠内において如何ほどの株式を発行するかは、もとより發起人または取締役会の決定すべきことがらであつて、株主總會はなんらこれに對して干渉を加へ得ないのである。すなわち取締役会は、会社資金の必要と証券市場の狀況とを勘案して、もつとも適當と認められる時期において、必要数の株式を隨時發行し得る機動性を持つのである。殊に全額拂込主義をとる法制の下においては、この授權資本の制導は、株金の分割拂込の制度に代る役割を果すことになる。

かくして發行された株式は發行済株式 (issued capital stock) であり、發行未済の株式は未發行株式 (unissued capital stock) である。したがつて授權資本の制度を採用する以上は、從來の觀念における資本の増加といふものは存在しないのであつて、精々授權資本の枠を拡張するという意味における資本増加の觀念があり得るに過ぎないのである。

しからば今次の改正法は、どの程度において英米授權制度を継受したか。改正法は條文の上においては、授權資本または授權株式等の言葉を用いずに「会社が發行する株式の總数」という語を用いているのであつて、このことは定款の絶対的必要事項ではあるが、(改一六六條) わが法制下においては、会社の設立につき官廳の許認可を必要としないのであるから、アメリカ法におけるが如き設立認可証というようものは従つてまた存在しない。だから会社が發行する株式の總数は、株式發行の權限を官廳から授權された限度を表明するのではなく、強いていうならば定款によつて

發行を授權された限度を表わすに過ぎないのである。言換へれば、アメリカ法における取締役の株式發行の權限は、州務長官によつて授權されたものであるが、わが改正法における取締役の株式發行の權限は定款によつて授權されたものであるといふことができる。

しかもこの会社の發行する株式の總数のうち、四分の一以上はかならず会社の設立に際してこれを發行しなければならぬのであつて (改一六六條)、残余の部分については、取締役会は、会社成立後新株の發行權を有するに過ぎないのである (改二八〇條)。かくの如く、会社の設立に際しては、授權株式の四分の一以上を發行しなければならぬのであつて、若しこれが引受を欠くときは、發起人の共同引受があつたものと看做されるのであるから (改一九二條)、この範圍において改正法はなお資本確定の原則を維持するものといふことができるのである。

次に、会社が發行する株式の總数は、定款變更の方法を以てこれを増減し得るのはもちろんであつて、これを増加することは、名目資本の増加には相違ないが從來の觀念における資本の増加ではない。したがつて改正法は、現行法の資本増加に関する規定 (舊三三八條) を削除、または變更したのである。またこれを増加するについては、發行済株式總数の四倍に止めなければならぬ (改三四七條)。次に授權資本を減少することは、これまた名目資本の減少には相違ないが、現實の資本に影響を及ぼすものではないから、商法のいわゆる資本の減少ではない。

なお現實の会社資本の額は、登記事項ではあるが (改一八八條)、定款の記載事項ではない。ただし授權資本の制度を採用した以上、取締役会において新株を發行する毎に資本の額は増加するのほもちろん、無

額面株式を会社成立後発行するについては、その発行価格は会社設立当時においては未定であり、且つその発行価額から資本に組入れる額もまた不明であるからこれを定款に記載せしめることは不便であるとともに一々株主總會における定款の変更を要するものとすれば、新株の発行に機動性を持たせるための授權資本の制度を設けた趣旨は、全く没却されることになるからである。この現実の会社資本を減少することは、商法上のいわゆる資本の減少であつて、現行法の如く定款の変更には該当しないけれども、やはりこれと同様に株主總會の特別決議を要することにし（改三七）、その他の手續も現行法同様にしてゐる。

### 三、無額面株式

無額面株式（no-par stock, non-par value stock, share without par value）と云ふのは、株券面に券面額の記載のない株式であつて、總資本に対する割合と表示する比例株（quotenaktion）であり、單に株数のみが表示されているのである。

無額面株式は、主としてアメリカにおいて普及されたものであつて、独逸及びイギリスにおいては未だこの制度は認められてはいない。尤も独逸においては、一八六五年の鉱山会社法によつて、無額面株式類似のKinkの制度を認め、鉱山会社（Gewerkschaft）の正味資産に対する比例株の発行を認めたのであるが、しかしこのクックスは、株式会社の如く有限責任の株式でない点において異なる。また一五五〇年乃至一六二〇年頃におけるイギリスの joint stock companies は、資本金に対する部分持分券を発行したことがあるけれども、これまた純粹の株式会社ではなかつた。

アメリカにおいては、一八九二年にニューヨーク辯護士協會（The New York Bar Association）の特別委員會が、同協會に対する会社法改正に関する意見報告書の中において、無額面株式の發行制度を提唱したことが、一般の関心を高める動機となり、その後一九〇八年の同協會の年次總會において、無額面株式の制度を採択すべく立法議會に提案すべき委員會の設置を決議するとともに、同委員會はたゞちに州会社法改正五カ條の草案を起草して、その翌一九〇九年の州立法議會にこれを提出したのである。この法案は多数の支持を得て兩院を通過したけれども、税制上の問題により州知事の拒否によつて不成功に終つたのであるがその後、同法案を修正して一九一二年の議會において再び通過をみ、同年四月十五日知事の承認を得てこゝに初めて成立するに至つたのである。この改正法により初めて實際に無額面株式を發行したのは、同年十一月七日設立された The Wisconsin Edison Company Inc. であつて、資本金千二百万ドルのうち、普通株二十万株は無額面株式であつた。その後各州の採用するところとなり、現在においてはこの制度を採用しない州は極めて稀である。

アメリカにおける無額面株式には二種類ある。その一つは stated or fixed value no-par stock（記載式無額面株式・規定價額無額面株式・表示價額無額面株式）であり、他は true or actual no-par stock（純粹無額面株式・眞の無額面株式）である。前者は株券面に券面額の表示はないが、定款にその發行價額に関する規定（stated value）のある株式であり、後者は株券面にはもとより定款にも發行價額に関する定のない株式である。わが改正法による会社設立に際して發行する無額面株式は前者であり（改一六六條）、会社

成立後發行する無額面新株式は後者である。

しからば、無額面株式の制度を認める理由は果してどこにあるか。これについては、まず額面株式の券面額の持つ意義について考えてみなければならぬ。

手形その他の債權証券に記載された券面額は、一應そのまゝその債權の經濟的價値を表わすものであるが株券の券面額はそうした株式の經濟的價値を表わすものではない。すなわち株式の經濟的價値は、会社財産の内容及び事業の盛衰その他証券市場の景氣等によつて左右され、時々刻々變動しつゝあるのが実情である従つて株券に記載された券面額は、ならん株式そのものの價值判斷の尺度となるものではなく、高々株式引受人の過去の投資額・したがつてまた株主有限責任の限度を表わすに過ぎないのである。しかるに無知の投資家は、これをもつてあたかも株式の價值を表わすものであるかの如く誤解し、そこに株式による詐欺的行爲の行われる余地がないとは保障し得ないのである。

殊に株式の本質は、株主の企業經營の參加權・利益配當請求權・残余財産分配請求權等についての比例的持分であつて、固定的な金額をもつて表示し得べきものではない。したがつて、株券面に株式数を表示することは、もとより意義の存するところではあるが、金額を表示することは、ほとんど無意義に近いといわなければならないのである。

さらにまた額面株式については、いずれの法制においても額面未滿の價額をもつて割引發行することを禁じているため、その会社の株式の証券市場における價額が額面を割る場合には、額面價額による新株の發行は不可能となり、会社資金の調達途はついに閉ざされざるを得ないことになるのである。そこで会社は窮余の策として、現物出資財産の過大評價を爲し、これ

## ジャーナリズムの三態

文学部次長  
教授 中 井 駿 二一

日常、世に処するために、ひとはまず何を知らうと欲するであらうか。遠くに住む知人の安否か、外國の奇異な傳説か、それとも明日の天候であるか。

ひとが知らうと欲することは様々である。農民は天候を、商人は市況を、學者は新知識を、醫師は流行病を、政治家は世論を、即ち自己をとりまく生活の環境を知らうとするのである。環境とその変化を知ることなくしては、世に処して行くことはできない。そこで求められるのは、生活環境の新しい出來事についてである。しかも特殊な環境の特殊な出來事、例えば失つた財布の所在とか、死んだ母親の埋葬とかは、個人的な方法によつて、それに関連する知識を得るの外はないであらう。しかしひとは一國の、一都市の、一部落の、平均化された環境において、平均化された精神の状況の下に、生活しているのであるから、何よりも知らうと欲することは、共通の関連性をもつ事象、即ち社会的出來事であるといえる。

この要求に應えることがジャーナリズムの一つの機能である。ニュースはかゝる要求を充足する爲に新聞紙面に盛られる。報道が新聞の第一の使命であると考えられる理由がそこにあるのである。ジャーナリズム発生の跡を追つて見ても、公衆の社会生活に資する知識を提供することに始まつたということが、それを実証している。

報道される事実は、その時、何よりも客觀的に記述されたものであることが要求されたのは当然であつた。市況が一執筆者の主観に立脚したものであつては最早や市況としての意味を持たないであらう。戦況も亦然りであり、諸事すべて嚴密に客觀性をもつて報道されてこそ、眞にニュースであり得たのである。初期ジャーナリズムが通信ジャーナリズム又は報道ジャーナリズムと呼ばれたのは、新聞の第一の使命をそこに置いたからであり、公衆の要求がそれによつてまず、満足せしめられたからであつた。

だがジャーナリズムのもつ時事性と定時性とは、それに附隨する新しい様態を示すに到つた。時事性とはジュールに属することであり、出來事はつねに斷續するものであるから、その非連續の連續について、ひとはその意味の解釈に苦しんだのである。

テトイは何故にコミンフォルムの指令に従わないのであるか。アメリカ軍事予算は世界情勢に如何なる影響を持つか。中共との貿易は、三鷹事件は、池田放言は、等々事件として報道される事象の意味は、政治や經濟や社会生活を構成する要素が、複雑になればなる程、事象に含まれる意味も亦複雑となつており、それを解くことがなくては、世に処する態度において欠くところあるのを感じざるを得ないのである。

こゝにニュース・アナリシスの要求が起る。しかし報道された事実に対する解釈が、それが解釈である限

對して表面上株式の額面発行を爲すとか、あるいは発起人または現物出資者と相通じて爲した水割発行株を後日会社に返還を受けて、これを会社の金庫株 (treasury stock) として、市場價額によりこれを賣出す等の詐欺的行爲が行われたのである。

ところが無額面株式については、額面未滿の発行禁止というが如き制約は存しないのであるから、会社は適正な市場價額によつて自由にこれを発行し得て、ここに資金調達を目的を容易に達し得る便益があるのである。ただし会社の設立に際して発行する無額面株式については、定款に定めた最低発行價額 (改一六六條) 未滿で発行することは許されない。かくして無額面株式の持つ融通性は、会社資金の調達上相當の役割を果すであらうことは、疑のないところであるが、その反面において、取締役の株式發行操作により弊害もまた考慮しなければならぬ点である。すなわち市場價額の不当に低いときを見込んで、或は市場操作により價額の不当低下を圖つて、その時期にことさら株式を発行して後日の値上がり待つというような不正も、また將來あるいは起り得る可能性がないとも限らない。

これら株式の發行價額について改正法は、会社の設立に際して発行する株式については、定款に定められた最低発行價額を下らない程度において発起人全員の同意によりこれを定め (改一六六條一項七号)、会社成立後の新株については、原則として取締役会において均等額にこれを定めることを要するのであつて (改二八〇條ノ二、三)、いちじるしく不公正な價額によつて株式を発行することにより、株主に不利益を與えるおそれがあるときは、その株主は会社に対しその發行の

り純粹に客観的であることは困難であらう。そこには多かれ少なかれ、執筆者の主観が加わる。読者が解釈を聞くことは、とりもなおさず執筆者の意見を聞くこととなる。意見を聞くのならば、更に一步進めて論断を開くことが望ましい。という要求にまで発展したのは当然であつた。

ニュースのもつ非連續の連續に論理を發見し、事實のよつて來る原因と、その發展乃至終熄とを一つの方向において回顧し展望し、その文化的價値を評論し示現することは、新聞のもつ、もう一つの重要な機能である。ひとは事實を求める。そしてその批判を求める。特にそれが時事に關する批判であるところに、更にそれが事實の生起と時間的に密着した批判であるところに、新聞に表現される意見の意義があるのである。

かくて意見は、新聞において捕捉される事實の廣まると共に、また深まると共に、愈々その重要さを増すに至つた。殊に躍をついで生起する社會的事實が、爆發的且つ激突的である時代、云い換へれば、動亂の時代においては益々意見は求められ、また與えられた意見の影響するところは甚大となつたのである。初期ジャーナリズムが通信的ジャーナリズムと呼ばれるならば、この期のそれは、意見的ジャーナリズム又は評論的ジャーナリズムと呼ばれ得るであらう。

ジャーナリズムのもつ特質である時事性と、同時にそれが定時的であるといふことは反復性をもつといふことである。報道される事實は反復性をもたないかも知れないが、展開される意見は反復性をもつ。發生する事象に対して、一つの視点を定めるならば、意見者は如何なる事象をも論評することが可能である。その時、おのづから意見は反復されているのである。

この意見の反復性、それこそまさに宣傳にとつての最も有力なる方法であるといわねばならない。反復することによつて宣傳は恰も海綿に吸收される水のように浸透するのである。意見を主にする新聞が、意見の宣傳を主にする新聞の方向に進み入つたのは當然であつた。新聞學上パーソナル・ジャーナリズムと呼ぶ形態があり、それが社會的動亂の時代、變革の時代において榮え、平靜なる時代において衰えたのもその理由による。

ここに新聞の讀者の、報道された事實に対する反應は複雑である。西欧の食卓においては、政治の話と宗教の話とは、共に慣しむべきものとされているのも人間の持つ党派心や宗派心は、容易に一致点を見出すことが困難であるからに外ならない。新聞の論説においてもこのことはいえるであらう。現在では政治のみならず、經濟でも教育でも勞働でも、その他日常の生活に關することでも、一つの意見が多くの讀者を一樣に納得せしめることは不可能である。意見が指導する限界が、著しく明瞭になつて來ていたのである。

ジャーナリズムは初期、通信新聞の時代から、中期意見新聞の時代において大いに發達し、それが現代、いふところの大新聞なるものにまで發展することによつて、意見はむしろ片隅に寄せられ、再び報道を中心とする形態に變遷し來つたと考えられる。だが現在では果して報道が再び新聞機能の主導權を握つていゝであらうか。

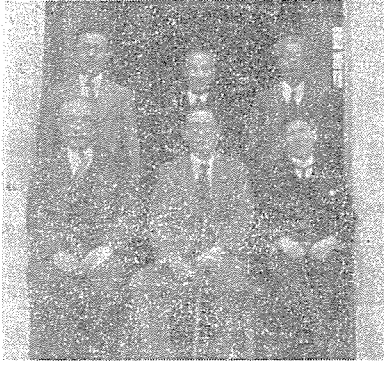
意見が新聞の支配的機能であつた時代は、讀者がその意見に納得し賛同し支持した時であつた。現在でも政覺機關紙はその方向をとつてゐる。しかし数百万の讀者を擁する大新聞にあつては、意見は、その讀者の平均化された人間としての、平均化された興味に應え

る程度の、いわば平均化された意見の域に止まらざるを得ないのである。従つて意見は論断を伴う解説の好き貌をとつてゐる。嘗て意見新聞が持つた宣傳性は影をひそめ、一見報道が中心なるかの觀を與えてゐるのである。

だが讀者が抑もの当初において新聞に要求したものは今日と雖も變化していないことを考えれば、何処かにおいてその要求は充されねばならず、新聞のもつ宣傳性も潜在した觀で發揮されると見なければならぬであらう。報道は純粹に客観的でなければならぬとは全世界の新聞の倫理である。だが捕捉されたニュースのいずれを報道するかといふことは編集者の判斷にある。勿論その窮極の目標は公衆の利益といふことであらねばならないが、それにしてもなおかつ、編集者の主観はその時強力に効くことは否定し得ない。ニュースの量は、世界の代表的新聞を例にとつても、掲載されるものの約三倍乃至十倍を越えるといわれる。如何なるニュースを如何なる形式によつて報道するか、その報道の仕方によつて、如何なる思想的乃至心理的効果を讀者に與えるかといふことは編集者の手に委ねられてゐるのである。特に冒頭に記した事件のバックグラウンドの解説に當つては、立場によつて種々に異り得る可能性がある。更に編集に一つの方向をもつことによつて、顯在的宣傳が果し得ないポテンシャルな多大の宣傳的效果を收めることも出来るのである。ニュースが編集によつて制約されるとき、新しいジャーナリズムの性格が生れる。これが編集的ジャーナリズムと呼ばれるものであり、今日、世界のジャーナリズムを特色づけている傾向なのである。(筆者は新聞學担任)

なお協議員会終了後、第一回の理事会において互選の結果左の通り常務役員の

本学にては坂本先生多年の功績を表彰  
するため五月三日千里山大学院学舎に坂  
本憲三氏を迎え、岩崎学長、宮崎理事長  
木村、中谷、福島各教授出席、合格者を  
以て組織する土曜会員多数参集、岩崎学



前列右より岩崎学長 坂本先生 宮崎理事長

長より坂本先生の功績を讃えて感謝状を  
呈し、宮崎理事長より記念品を贈呈し福  
岡彰郎君は土曜会を代表して先生多年の  
学恩に對し衷心より感謝の意をのべ、清  
く美しき光景であつた。

当日出席の土曜会員 町四郎(檢) 沼  
田美代次(辯) 永田旭(辯) 植垣幸雄  
(辯) 福村敏雄(辯) 大津権作(辯)  
伊藤秀一(辯) 辻本修(檢) 岡田退一  
(辯) 本井吉雄(檢) 藤倉利一(辯)  
阿部甚吉(辯) 福岡彰郎(辯) 依田六  
郎(判) 棚野誠幸(辯) 川根洋三(辯)  
栗本義重(辯) 福地壽三(判) 小林昶  
(辯) 河内兼三(辯) 松浦孝一(辯) 中藤  
幸太郎(檢) 藤井捨三(辯) 野村清美  
(辯) 碩殿、倉橋春雄、大井享、下村  
末治、高橋吉久(以上修)

## 財團法人 新役員

### 〇理事

宮島 綱男氏 明治四十一年早  
大卒、海外留学

後早大教授、大正八年本学教授、同十  
年より昭和三年まで本学専務理事、同  
三年より九年まで國際労働會議日本使  
用者代表常任顧問兼國際労働局理事並  
に文部省より歐米における大学制度調  
査の委嘱を受く。昭和二十一年本学理  
事、同二十三年理事長就任、尙社團法  
人神戸日佛協會会長、財團法人関西日  
佛学校評議員

### 春原源太郎氏

長野縣出身、昭  
和七年本学法科  
卒業在学中高文司法科合格、昭和六年  
辯護士開業、昭和二十一年本学講師と  
して専門部民法債權担任、昭和二十二  
年理事就任廿四年四月まで専務理事。

### 村尾 靜明氏

大阪府出身、明  
治三十七年関西  
法律学校卒、明治三十八年大阪府警部

### がくぼう抄

△川上敬逸教授 五月六、七兩日神戸大  
学で開催の國際法学会大会に出席

△今西庄次郎教授 五月十九日より同二  
十一日まで京都大学で開催の日本經濟  
政策学会第二回大会に出席  
△松原藤由教授 五月二十四日より同二  
十九日まで大分大学で開催の日本經濟  
学会大分大会に出席

に任じ大正六年大阪府警視廳任、大正  
十年大阪市主事、昭和六年より九年ま  
で大阪市住吉区長、昭和四年本学協議  
員、同二十二年本学顧問

### 關 豐馬氏

大阪府出身、明  
治四十四年本学  
専門部法科卒、辯護士試験に合格して  
大正四年より辯護士開業、大正十三年  
本学講師として民事訴訟法担任、昭和  
八年本学協議員、現在日本辯護士連合  
会資格審査委員外各種調停員

### 宇佐美正祐氏

長野縣出身、大  
正八年京大法學  
部後本学留學として独乙に留學伯林大  
学にて法律學を修め、大正十三年辯護  
士開業、昭和十六年本学協議員

### 和田 豊二氏

福井縣出身、昭  
和三年本学法學  
部卒、昭和五年本学講師、同七年助教  
授、同九年教授、同十五年専門部主事  
同十九年附屬関西甲種商業学校校長兼第

△飯田正一教授 吉永登教授 五月二十

日京都大学で開催の國立國語研究所講  
演會に出席

△梶原秀男教授 六月十六日より同十九

日まで東京青山学院大学で開催の日本  
英文学大会に出席

△關西大學國文學會より季刊「國文學」  
第一号發行された。

内容「愚ふ」と「忍ぶ」(沢瀉久孝)  
筑前志賀白水郎歌十首異見(釜田喜三

二商業学校長、同二十二年法文学部教  
授民法担任、同二十三年法学部部長歷  
任

### 〇監事

竹田 省氏 明治卅九年京大

卒商法研究の爲  
獨佛英に留學、大正十四年京大教授同  
六年法学博士、昭和七年退官、京大  
名譽教授、辯護士開業、昭和十八年大  
阪辯護士會長、昭和十九年本学長事務  
取扱、昭和二十二年本学監事

### 阿部 甚吉氏

徳島縣出身、昭  
和七年本学専門  
部法科卒業、昭和九年辯護士開業、同  
二十二年本学監事

### 八鳥 治一氏

三重縣出身、昭  
和六年法文学部  
英文学科卒、同八年本学講師、同十一  
年助教、同十四年教授、豫科学主事  
豫科学生部長を兼ねた、昭和二十二年  
本学協議員、現在新制大学教授英語學  
担任

郎)古事記に於ける出雲關係記載の一  
考察(横田健一)和名類聚抄二十卷本  
の原形(秋本吉郎)袖中抄における万  
葉語の研究一特にその方法論的考察一  
(吉永登)建礼門院右京大夫考一(飯  
田正一)西鶴の世話とアーチ形プロッ  
ト(金子又兵衛)

(定價七〇円、下六円、紅帆社發賣)

昭和二十五年

學科目擔任表

(昭和二十五年六月一日現在)

新制大學院

法學研究科

專攻主講座

憲法學研究(講義) 專任 中谷 敬壽

行政法學研究(講義) 同 同

刑法學研究(講義) 同 同 幸辰

政治學研究(講義) 同 同 岩崎 卯一

民法學研究(一)(講義) 專任 同 福島 四郎

民法學研究(二)(講義) 專任 同 木村 健助

商法學研究(演習) 同 同 西本 寬一

選取講義 同 同

國際法學研究(講義) 專任 同 恒藤 恭

法制史研究(講義) 同 同 猪熊 兼繁

英米法研究(講義) 同 同 大阪谷公雄

文學研究科

專攻主講座

專攻主講座

英米文學研究(講義) 專任 同 石田 憲次

經濟學研究科

專攻主講座

經濟理論研究(講義) 專任 同 三谷 友吉

金融經濟論研究(講義) 專任 同 森川 太郎

財政學研究(講義) 專任 同 藤谷 謙二

一般經濟史研究(講義) 專任 同 矢口孝次郎

日本經濟史研究(講義) 專任 同 鐙方 貞亮

獨文經濟書研究(講義) 專任 同 三谷 友吉

英文經濟書研究(一)(講義) 專任 同 森川 太郎

英文經濟書研究(二)(講義) 專任 同 矢口孝次郎

會計學研究(同) 同 同 健二

監查論研究(同) 同 同 陶山誠太郎

新制學部 (第一部及第二部共)

法學部

民法第二部、英法、政治學、社會學概論

刑法、英法、法學演習

外國政治書、國際法、政治學演習

民法第三部、佛法、法學演習

憲法、法理學、行政法第一部

民法第三部、獨法

民法第一部、英法、法學演習

川上 敬速

木村 健助

中谷 敬壽

福島 四郎

和田 豐二

池田定太郎

櫻田 譽

浪江 源治

西本 寬一

內田 修

安藤 俊雄

足立 忠夫

秋山 博愛

井上吉次郎

飯田 正一

鐙方 貞亮

池田 栄

生沢万壽夫

石浜純太郎

板原 哲夫

猪熊 兼繁

上柳 克郎

植野 郁太

|                  |       |
|------------------|-------|
| 日本史概説            | 魚澄惣五郎 |
| 佛語               | 宇野 史郎 |
| 獨語               | 上道 直夫 |
| 教育心理学            | 遠藤 汪吉 |
| 英語               | 榎本金次郎 |
| 國法学              | 大石 義雄 |
| 哲學               | 大小島眞二 |
| 哲學概論             | 岡野留次郎 |
| 英語               | 小川 忠藏 |
| 英語               | 小野 勇  |
| 統計學概論            | 岡部 利良 |
| 獨語               | 大崎 義夫 |
| 信託法              | 大阪谷公雄 |
| 人文地理概説           | 川喜田二郎 |
| 社会思想史            | 加藤由次郎 |
| 日本文学             | 金子又兵衛 |
| 社会政策             | 河野 稔  |
| 数学、化学            | 河村 信一 |
| 心理学              | 川口 勇  |
| 自然地理學概論          | 木村 春彦 |
| 社会学              | 藏内 龜太 |
| 英語               | 小島 勇  |
| 國際私法、佛法          | 斎藤 清  |
| 經濟學概論            | 沢村 栄治 |
| 經濟原論             | 杉原 四郎 |
| 数学               | 杉原 雅  |
| 教育一般原理、教育史、教科教育法 | 鈴木 詳藏 |
| ガイダンス            | 鈴木 重貞 |
| 獨語               | 田中 周友 |
| 西洋法制史            |       |

|               |       |
|---------------|-------|
| 外交史、國際政治学     | 立川 文彦 |
| 倫理學概論、倫理学     | 田中 照  |
| 佛語            | 竹村 茂助 |
| 佛語            | 高塚洋太郎 |
| 行政法第二部        | 高橋 貞三 |
| 佛語            | 田中 栄一 |
| 簿記學概論         | 富山 忠三 |
| 佛語            | 土居 博  |
| 教育史、カリキュラム    | 寛田 知義 |
| 佛語            | 中井 駿二 |
| 生物学           | 中田 五一 |
| 獨語            | 中村 恒雄 |
| 物理学           | 橋田 慶藏 |
| 英語            | 八島 治一 |
| 草語            | 廣瀬 捨三 |
| 東洋文学          | 福島 俊翁 |
| 財政学           | 藤谷 謙二 |
| 哲学            | 藤本 是  |
| 商業数学          | 堀江 義廣 |
| 英語            | 本多平八郎 |
| 英語            | 増田 忠藏 |
| 英語            | 松原 藤由 |
| 社会政策          | 松田 勇  |
| 社会思想史         | 眞辺 春藏 |
| 論理学           | 眞次 直雄 |
| 獨語            | 森 義宣  |
| 政治史、政治学史      | 森川 太郎 |
| 金融論           | 毛利 與一 |
| 刑事訴訟法         | 山崎 紀男 |
| 英語            | 山本戸克己 |
| 民事訴訟法第一部、同第二部 |       |

|                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 日本文学               | 吉永 登                |
| 人類学                | 横田 健一               |
| 心理学                | 和田 陽平               |
| 文 學 部              |                     |
| 教 授                |                     |
| 史學概論、西洋史概説、西洋史史    | 安藤 俊雄               |
| 料講読                | 飯田 正一               |
| 國文学史、國文演習、日本文学     | 飯田 正一               |
| 東洋史概説、東洋史史料講読      | 石浜純太郎               |
| 日本漢学史              | 上道 直夫               |
| 獨文学作品研究、獨文学演習、獨語   | 榎本金次郎               |
| 專門獨語               |                     |
| 英米文学作品研究(劇文学)、英語   |                     |
| 西洋哲學史概説、哲學特殊講義     | 大小島眞二               |
| 西洋哲學史概説、哲學演習及講読    | 岡野留次郎               |
| 哲學概論               | 金子又兵衛               |
| 國文学作品研究(近世文学)、國文演習 |                     |
| 日本文学               | 英米文学作品研究(散文文学)、專門英語 |
| 英語                 | 榎原 秀男               |
| 英語                 | 演習(英米詩文学)、專門英語      |
| 中國文学史概説、中國文学作品研究   | 進藤浩二郎               |
| 倫理學概論、倫理学          | 高橋 盛孝               |
| 中國哲學史概説、中國文学作品研究   | 田中 照                |

|                                     |       |
|-------------------------------------|-------|
| 專門漢文                                | 室井 義正 |
| 論説論、文学概論、佛語                         | 中井 駿二 |
| 英語史、專門英語、英語                         | 八島 治一 |
| 演習(英米詩文学)、ラテン語                      | 廣瀬 捨三 |
| ギリシヤ語                               |       |
| 中世獨文学及語学、獨語史                        | 福本喜之助 |
| 專門獨語                                |       |
| 新聞英語、新聞發達史、新聞演習                     | 藤田進一郎 |
| 英米文学史、英米文学作品研究(詩文学)、演習(英米散文文学)、專門英語 | 堀 正人  |
| 佛語學概論、佛文学演習、專門佛語                    | 三木 治  |
| 佛語                                  |       |
| 英米文学史、演習(英米劇文学)                     | 山田松太郎 |
| 專門英語                                |       |
| 日本及東洋美術史、日本史史料講読                    | 横田 健一 |
| 人類学                                 |       |
| 日本文学作品研究(上古及中古文学)                   | 吉永 登  |
| 日本文学                                | 河村 信一 |
| 数学、化学                               |       |
| 助 教 授                               |       |
| 英語                                  | 小野 勇  |
| 英語                                  | 廣岡 英雄 |
| 哲學                                  | 藤本 是  |
| 獨語                                  | 眞次 直雄 |
| 員外教授                                |       |
| 新聞學概論、編集論                           | 井上吉次郎 |
| 体育実技                                | 石渡 俊一 |
| 體育講義                                | 木下 東作 |
| 日本文学作品研究(近古文学)                      |       |

|                  |           |                 |       |                 |        |                |       |
|------------------|-----------|-----------------|-------|-----------------|--------|----------------|-------|
| 日本文学             | 小島 吉雄     | 社会学             | 藏内 蕨太 | 英語              | 増田 忠雄  | 東洋文学           | 板原 哲夫 |
| 独文学史、独文学作品研究     | 渡辺 格司     | 専門口語            | 小島 憲之 | 英語              | 山崎 紀男  | 日本文学           | 飯田 正一 |
| 専任講師             |           | 佛文学作品研究、佛文学特殊講義 | 佐野 勇  | 美学概論、西洋美術史      | 山本万次郎  | 日本國憲法          | 内田 修  |
| 西洋史特殊講義、歴史学      | 秋山 博愛     | 独語              | 佐藤 長  | 日本文学作品研究(中古文学)  | 山脇 毅   | 佛語             | 宇野 史郎 |
| 教育一般原理、教科教育法、カリ  | 鈴木 詳藏     | 日本文学作品研究(近代文学)  | 斎藤 清  | 日本文学作品研究(近古文学)  | 吉永 孝雄  | 會計学総論、演習       | 植野 郁太 |
| 講 師              |           | 科学概論、数学         | 柳原 美文 | 独語              | 米田 滋   | 憲法             | 大石 義雄 |
| 実用英語             | アンビー・クラウス | 経済原論            | 杉原 四郎 | 心理学概論、心理学       | 和田 陽平  | 獨語             | 大崎 美夫 |
| 専門口語             | 秋本 吉郎     | 独語              | 鈴木 重貞 | 經濟學部            |        | 工業簿記、原價計算      | 岡部 利良 |
| 生物学              | 生沢万壽夫     | 考古学概論           | 末永 雅雄 | 授               |        | 社会思想史、経済哲学     | 加藤由次郎 |
| 日本経済史、経済史        | 鎗方 貞亮     | 佛文学作品研究、佛語      | 田中 栄一 | 日本経済史、経済史特殊研究   | 鎗方 貞亮  | 日本文学           | 金子又兵衛 |
| 中国文学作品研究、東洋文学    | 板倉 哲夫     | 西洋法制史           | 田中 周友 | 演習              | 沢村 栄治  | 佛語經濟書、演習       | 賀屋 俊雄 |
| ギリシャ語、ラテン語、言語学概論 | 岩倉 具実     | 佛語              | 高塚洋太郎 | 英語經濟書、經濟学概論     | 沢村 栄治  | 商業經濟学、交通經濟学、演習 | 河村 宜介 |
| 日本史概説            | 魚澄惣五郎     | 教育史、カリキュラム      | 立川 文彦 | 英語經濟書、經濟学概論     | 杉原 四郎  | 國際法            | 川上 敬逸 |
| 独文学作品研究          | 内山貞三郎     | 佛語              | 寛田 知義 | 獨語經濟書、英語經濟書     | 高木 秀玄  | 数学、化学          | 河村 信一 |
| 法学概論             | 内田 修      | 生物学             | 竹村 茂助 | 英語經濟書、統計学、統計学概論 | 中川 庸太郎 | 社会学            | 藏内 蕨太 |
| 佛語               | 宇野 史郎     | 独語              | 土居 博  | 演習              | 藤谷 謙三  | 商法第一部、同第二部     | 國藏 庸臣 |
| 教育心理学            | 遠藤 汪吉     | 法理学、憲法          | 中村 恒雄 | 經濟學部            | 三谷 友吉  | 日本文学           | 小島 吉雄 |
| 統計学              | 岡部 利良     | 國語学概論           | 中谷 敬壽 | 財政学、演習          | 松原 藤由  | 社会政策           | 河野 稔  |
| 独語               | 大崎 義文     | 物理学             | 林 和比古 | 工業經濟学、演習        | 森川 太郎  | 保險論            | 近藤 文二 |
| 英語学概論            | 大塚 高信     | 宗教学概論、宗教史概論     | 橋田 慶藏 | 金融經濟論、演習        | 矢口孝次郎  | 憲法、行政法         | 櫻田 譽  |
| 英語               | 小川 忠藏     | 中国文学作品研究、東洋文学   | 久山 康  | 經濟史、演習          | 今西庄次郎  | 独語             | 斎藤 清  |
| 經濟哲学、社会思想史、論理学   | 加藤由次郎     | 財政学             | 福島 俊翁 | 証券市場論、演習        | 明石 三郎  | 公企業論           | 杉原 雅  |
| 心理学              | 川口 勇      | 思想史概説           | 藤谷 謙二 | 民法              | 秋山 博愛  | 佛語             | 鈴木 重貞 |
| 人文地理概説           | 川喜田二郎     | 論理学             | 堀 喜望  | 歴史学             | 岩崎 卯一  | 簿記学概論          | 竹中 能雄 |
| 自然地理学概説          | 木村 泰彦     | 經濟政策            | 松原 藤由 | 社会学概論           | 生沢万壽夫  | 佛語             | 竹村 茂助 |
|                  |           |                 |       | 生物学             |        | 独語             | 田中 照  |
|                  |           |                 |       |                 |        |                | 富山 忠三 |
|                  |           |                 |       |                 |        |                | 土居 博  |
|                  |           |                 |       |                 |        |                | 中村 恒雄 |

|                  |       |
|------------------|-------|
| 佛語               | 中井 駿二 |
| 財政特殊研究           | 西川 清治 |
| 英語               | 八島 治一 |
| 物理学              | 橋田 慶藏 |
| 英語               | 廣岡 英雄 |
| 英語               | 廣岡 拾三 |
| 東洋文学             | 福島 俊翁 |
| 倫理学、哲学概論         | 藤本 是  |
| 独語               | 福本喜之助 |
| 経済原論             | 堀 経夫  |
| 英語               | 本多平八郎 |
| 外國經濟事情           | 細野 武雄 |
| 社会思想史            | 松田 勇  |
| 論理学              | 眞辺 春藏 |
| 独語               | 見次 直雄 |
| 英語               | 水谷 揆一 |
| 農業経済学            | 山岡 亮一 |
| 英語               | 山崎 紀男 |
| 貨幣論、銀行及信託論、英語經濟書 | 安田 信一 |
| 独語               | 米田 龍  |
| 人類学              | 横田 健一 |
| 商學部              |       |
| 証券市場論、經濟政策、演習    | 今西庄次郎 |
| 會計学總論、経営学總論、演習   | 植野 郁太 |
| 佛經經濟書、貿易實務論、商業英語 |       |

|                  |       |
|------------------|-------|
| 演習               | 賀屋 俊雄 |
| 社会政策、労務管理論、英語經濟書 | 河野 稔  |
| 銀行信託論、英語經濟書、演習   | 安田 信一 |
| 商業経済学、交通経済学、演習   | 河村 宜介 |
| 財政学、演習           | 藤谷 謙二 |
| 經濟原論、金融經濟論、演習    | 森川 太郎 |
| 經濟史、演習           | 矢口孝次郎 |
| 英語經濟書            | 山口 辰男 |
| 講 師              |       |
| 歷史学              | 秋山 博愛 |
| 民法               | 明石 三郎 |
| 經濟史、演習           | 生沢万壽夫 |
| 東洋文学             | 板原 哲夫 |
| 日本文学             | 飯田 正一 |
| 日本國憲法            | 内田 修  |
| 佛語               | 宇野 史郎 |
| 憲法               | 大石 義雄 |
| 独語               | 大崎 義夫 |
| 経営比較             | 岡部 利良 |
| 日本文学             | 金子又兵衛 |
| 商品学、数学、化学        | 河村 信一 |
| 商法第一部、同第二部       | 國藏 周臣 |
| 保險論              | 近藤 文二 |
| 日本文学             | 小島 吉雄 |
| 憲法               | 櫻田 譽  |
| 独語               | 斎藤 清  |
| 經濟学概論            | 沢村 栄治 |

|                   |       |
|-------------------|-------|
| 独語                | 鈴木 重貞 |
| 数学                | 杉原 雅  |
| 独語經濟書             | 杉原 四郎 |
| 公企業論              | 竹中 能雄 |
| 佛語                | 竹村 茂助 |
| 倫理学               | 田中 照  |
| 統計学、統計学概論、演習      | 高木 秀玄 |
| 工業簿記、原價計算、會計監査及分析 | 陶山誠太郎 |
| 簿記学概論             | 富山 忠三 |
| 佛語                | 土居 博  |
| 独語                | 中村 恒雄 |
| 経営学特殊研究 I         | 餘江 城夫 |
| 佛語                | 中井 駿二 |
| 國際經濟論、經濟變動論       | 中川勝太郎 |
| 英語                | 入島 治一 |
| 物理学               | 橋田 慶藏 |
| 英語                | 廣岡 拾三 |
| 英語                | 廣岡 英雄 |
| 独語                | 福本喜之助 |
| 東洋文学              | 福島 俊翁 |
| 倫理学、哲学概論          | 藤本 是  |
| 經濟原論              | 堀 経夫  |
| 予算統計、標準原價         | 本田 利夫 |
| 外國經濟事情            | 細野 武雄 |
| 商業数学              | 堀江 義廣 |
| 英語                | 本田平八郎 |
| 國際金融論             | 松井 清  |
| 論理学               | 眞辺 春藏 |
| 演習                | 三谷 友吉 |

|           |        |
|-----------|--------|
| 独語        | 見次 直雄  |
| 商業数学、英語   | 水谷 揆一  |
| 英語        | 山崎 紀男  |
| 独語        | 米田 龍   |
| 人類学       | 横田 健一  |
| 短期大學部     |        |
| 商工經濟學科    |        |
| (第一部及第二部) |        |
| 物理、生産資料   | 太田 雅一  |
| 論理学       | 入江 深   |
| 数学        | 加藤由次郎  |
| 商業概論      | 佐々木富五郎 |
| 英語        | 橋田 慶藏  |
| 簿記        | 河村 信一  |
| 工業経営      | 河村 宜介  |
| 英語        | 角田 文雄  |
| 機械要領      | 富山 忠三  |
| 員外教授      | 松原 藤由  |
| 商法        | 山口 辰雄  |
| 助教授       | 高橋 盛孝  |
| 商業概論      | 吉本 一朗  |
| 專任講師      | 西本 寛一  |
| 商業経営      | 佐伯 三郎  |
|           | 西村 一郎  |
|           | 餘江 城夫  |

|                   |                |                |    |       |    |       |         |                |
|-------------------|----------------|----------------|----|-------|----|-------|---------|----------------|
| 講<br>師            | 歷史             | 秋山 博愛          | 英語 | 松本 正一 | 英語 | 三宅川 正 | 英語      | 金子又兵衛          |
|                   | 法學             | 池垣定太郎          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 水谷 揆一 | 中國文學    | 中國文學作品研究、中國文學史 |
| 講<br>師            | 第二外國語(獨語)      | 宇野 史郎          | 英語 | 水谷 揆一 | 英語 | 六鹿 英治 | 中國哲學    | 高橋 盛孝          |
|                   | 第二外國語(獨語)      | 久保田 肇          | 英語 | 水谷 揆一 | 英語 | 水谷 揆一 | 上古文學、演習 | 齋井 義正          |
| 講<br>師            | 經濟學            | 沢村 栄治          | 英語 | 水谷 揆一 | 英語 | 六鹿 英治 | 講       | 吉永 登           |
|                   | 工業經營           | 藤川 建治          | 英語 | 水谷 揆一 | 英語 | 六鹿 英治 | 講       | 小田 武           |
| 講<br>師            | 經濟學            | 三谷 友吉          | 英語 | 水谷 揆一 | 英語 | 六鹿 英治 | 講       | 小川 正己          |
|                   | 商法             | 矢口 家治          | 英語 | 水谷 揆一 | 英語 | 六鹿 英治 | 講       | 川村勝太郎          |
| <b>專門部</b>        |                |                |    |       |    |       |         |                |
| (第一部及第二部共)        |                |                |    |       |    |       |         |                |
| 講<br>師            | 法律科            | 加藤由次郎          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 富山 忠三 | 講       | 齋藤 善三          |
|                   | 論理學            | 木村 健助          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 中川庸太郎 | 講       | 榎原 美文          |
| 講<br>師            | 民法             | 角田 文雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健三          |
|                   | 英語             | 福島 四郎          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 民法             | 藤谷 健二          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 村山 修一          |
|                   | 財政學            | 西本 寛一          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 四辻 詮           |
| 講<br>師            | 法學、演習          | 濱江 源治          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 角田 文雄          |
|                   | 商法             | 西本 寛一          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 廣岡 英雄          |
| 講<br>師            | 英語             | アン・ビー・クルース     | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 大西 忠雄          |
|                   | 佛語             | 大西 忠雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小川 正己          |
| 講<br>師            | 國際私法           | 川上 太郎          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小田 武           |
|                   | 行政法            | 杉村 敏正          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 釜田喜三郎          |
| 講<br>師            | 刑事訴訟法          | 竹内 猛           | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 川並 秀雄          |
|                   | 刑事訴訟法          | 萩原 潤三          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 民法、演習          | 本多 芳郎          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 所 勇            |
|                   | 社會政策           | 松田 勇           | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 水谷 揆一          |
| <b>經濟科</b>        |                |                |    |       |    |       |         |                |
| 講<br>師            | 論理學            | 加藤由次郎          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 富山 忠三 | 講       | 小田 武           |
|                   | 貿易爲替           | 賀屋 俊雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 中川庸太郎 | 講       | 川村勝太郎          |
| 講<br>師            | 英語             | 角田 文雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 齋藤 善三          |
|                   | 國際經濟           | 中川庸太郎          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 榎原 美文          |
| 講<br>師            | 財政學            | 藤谷 謙二          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健三          |
|                   | 工業政策           | 松原 藤由          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 英語             | 山口 辰雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 村山 修一          |
|                   | 助 教 授          | 佐伯 三郎          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 四辻 詮           |
| 講<br>師            | 日本經濟史、經濟演習     | 西本 寛一          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 角田 文雄          |
|                   | 商法             | 西本 寛一          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 廣岡 英雄          |
| 講<br>師            | 英語             | アン・ビー・クルース     | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 大西 忠雄          |
|                   | 佛語             | 大西 忠雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小川 正己          |
| 講<br>師            | 經濟學史           | 川並 秀雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小田 武           |
|                   | 英語             | 久保 芳和          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 釜田喜三郎          |
| 講<br>師            | 商業、演習          | 塚田 豊三          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 川並 秀雄          |
|                   | 經濟、演習          | 角山 栄           | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 外國經濟事情         | 鯉江 城夫          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 所 勇            |
|                   | 社會政策           | 平林 忠雄          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 水谷 揆一          |
| 講<br>師            | 英語             | 松田 勇           | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
|                   | 商法             | 松本 正一          | 英語 | 加藤由次郎 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
| <b>商業科</b>        |                |                |    |       |    |       |         |                |
| 講<br>師            | 英語             | 三宅川 正          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 富山 忠三 | 講       | 小田 武           |
|                   | 英語             | 水谷 揆一          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 中川庸太郎 | 講       | 川村勝太郎          |
| 講<br>師            | 獨語             | 六鹿 英治          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 齋藤 善三          |
|                   | 獨語             | 六鹿 英治          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 榎原 美文          |
| 講<br>師            | 市場論            | 今西庄次郎          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健三          |
|                   | 貿易爲替           | 賀屋 俊雄          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 工業簿記、原價計算、會計監査 | 富山 忠三          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 村山 修一          |
|                   | 英語             | 中川庸太郎          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 四辻 詮           |
| 講<br>師            | 英語             | 山口 辰雄          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 角田 文雄          |
|                   | 員外教授           | 西本 寛一          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 廣岡 英雄          |
| 講<br>師            | 英語             | アン・ビー・クルース     | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 大西 忠雄          |
|                   | 佛語             | 大西 忠雄          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小川 正己          |
| 講<br>師            | 保險論            | 稻葉 襄           | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小田 武           |
|                   | 商業、演習          | 角山 栄           | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 釜田喜三郎          |
| 講<br>師            | 英語             | 鯉江 城夫          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 川並 秀雄          |
|                   | 英語             | 信坂 直一          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 外國經濟事情         | 平林 忠雄          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 所 勇            |
|                   | 工業政策           | 藤井 建二          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 水谷 揆一          |
| 講<br>師            | 會計學、經營學        | 堀口 義廣          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
|                   | 商法             | 松本 正一          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
| 講<br>師            | 英語             | 三宅川 正          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
|                   | 獨語             | 溝辺 龍雄          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
| 講<br>師            | 商業、英語          | 水谷 揆一          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
|                   | 獨語             | 六鹿 英治          | 英語 | 三宅川 正 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
| <b>文學科國語漢文章攻科</b> |                |                |    |       |    |       |         |                |
| 講<br>師            | 英語             | 金子又兵衛          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 富山 忠三 | 講       | 小田 武           |
|                   | 英語             | 中國文學作品研究、中國文學史 | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 中川庸太郎 | 講       | 川村勝太郎          |
| 講<br>師            | 英語             | 高橋 盛孝          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 齋藤 善三          |
|                   | 英語             | 齋井 義正          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 榎原 美文          |
| 講<br>師            | 英語             | 吉永 登           | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健三          |
|                   | 英語             | 小田 武           | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 英語             | 小川 正己          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 村山 修一          |
|                   | 英語             | 川村勝太郎          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 四辻 詮           |
| 講<br>師            | 英語             | 齋藤 善三          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 角田 文雄          |
|                   | 英語             | 榎原 美文          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 廣岡 英雄          |
| 講<br>師            | 英語             | 田中 健三          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 大西 忠雄          |
|                   | 英語             | 田中 健一          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小川 正己          |
| 講<br>師            | 英語             | 村山 修一          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 小田 武           |
|                   | 英語             | 四辻 詮           | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 釜田喜三郎          |
| 講<br>師            | 英語             | 角田 文雄          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 川並 秀雄          |
|                   | 英語             | 廣岡 英雄          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 田中 健一          |
| 講<br>師            | 英語             | 大西 忠雄          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 所 勇            |
|                   | 英語             | 小川 正己          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 水谷 揆一          |
| 講<br>師            | 英語             | 小田 武           | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
|                   | 英語             | 釜田喜三郎          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
| 講<br>師            | 英語             | 川並 秀雄          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
|                   | 英語             | 田中 健一          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
| 講<br>師            | 英語             | 所 勇            | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |
|                   | 英語             | 水谷 揆一          | 英語 | 金子又兵衛 | 英語 | 山口 辰雄 | 講       | 松本 正一          |



## 學生

### 千里山法律學會

本年度新事業として法律相談所を設け（天六学舎に於いて六月以降毎週土曜日午後一時より四時迄）教授、辯護士、學生が担当し、費用は一切不用大いに利用者を歓迎している。

### 社會科學研究部

法文研究会は毎週金曜日に「勞働運動史」

經濟研究部は毎週木曜日に「恐慌の理論」

講演会は毎月一回、著名人を招き一般學生に開放している。

### 經濟研究部

各自専攻科目に應じグループを持ち週一回の研究會を設けているが、主なるセクシヨンは理論經濟學、社會主義經濟學近代經濟學、日本經濟史、英國經濟史、經濟學史に亘り、その他本學教授を招いて講座を行う計画である。

### 映畫研究部

昨年度當部は本學体育各部の記録映畫の撮影を行った。  
拳闘部東西王座決定戦（於明大）二卷

レスリング王座決定戦  
フエニンシング対明大戦  
全三卷

全日本學生陸上競技大会  
以上であるが、學内に映寫設備があれば一般學生に公開したい。本年度もこのような記録映畫を撮る計画である。

### 演劇研究部「學園座」

五月三日「毎日會館」での二部學窓座と合同公演「若き心の群像」は多大の好評を拍したが、續いて來るべき文化祭の公演に、モリエール原作「恋の遺恨」五幕を中谷君が担当して全部員精進している。尙主なスタッフは左の通り

演出 中谷美久 裝置 関大美術部

音樂 衣川俊雄 演奏 関大オーケストラ

出演者 新田、高木、道下、西山等の諸君であり解説は詳略する。

### 邦樂部

箏曲、尺八、舞踊の三班があり、箏曲は村治流師匠木下登一師、舞踊は目下交渉中、それぞれ週二日ずつの練習日をもち、毎月下旬発表會を開催している。

### 美術部

全關西學生美術展に備へ部員一同は五月初旬より製作を始め六月初旬にはそれぞれ美術部へ搬入を行っている。本年は最少二十号で四十号五十号などの大作が多く、先輩塩見、川浪諸君の後を繼ぐ傑作も出ている。人物画の研究を行うためモデルを使つてのデッサン練習會を目下計画中である。

### 野球部

先ず前哨戦として立命大との対戦に新入網投手の好投により、3—1で勝ち、春季リーグ戦には關西學院に敗れたのみで勝点四点を挙げ、二シーズン優勝の栄を担つた。

対京大 一回戦 15—5 勝点二

対立命 一回戦 29—2 勝点二

対同大 一回戦 8—0 勝点二

一回戦 11—7 勝点三

一回戦 4—3 勝点三

一回戦 2—6 勝点四

一回戦 3—2 勝点四

二回戦 6—4 勝点四

二回戦 3—2 勝点四

二回戦 3—2 勝点四

二回戦 3—2 勝点四

二回戦 3—2 勝点四

二回戦 3—2 勝点四

二回戦 3—2 勝点四

### 相撲部

漸く本年度は充実成り關西學生相撲優勝大会に勝点四、得点二一、近大、関學と同一得点を挙げ、來る六月二十四日藤井寺に於て、同大を加え四校の優勝戦を行う。因みに戦績左の通り

一回戦 二回戦

対三重 大五—〇勝 対大工大五—〇勝

三回戦 四回戦

対関學 大—四負 對京樂大五—〇勝

五回戦 準々戰

對兵庫師五—〇勝 對龍谷大五—〇勝

フエニンシング部

未だ社會的には馴染の薄い部ではあるが三大学リーグに於いて、對立命戦には39—29で勝ち、同大には46—40で惜敗したが、本學のフエニンシング部は斯界で大いに認められている。

拳闘部

ハワイ遠征選手選抜全日本大会に井上君（ライト級）福本君（フライ級）二人が入賞、近く本學の名譽を担い全日本學生の與望を帯びて、ハワイ遠征に出發する。

ヨット部

大学對抗レース、一般對抗戦に惜しくも第二位となつたが、本年度は全日本學生競技の当番校であり、今秋和歌の浦で全日本大会が開催されるので猛練習中なるも、優秀なヨットがなく悩みの種である。



# 校 友

## 大 阪 支 部

四月二十二日天六学会にて校友会大阪支部幹事会を開催、大阪支部再建のため詮衡委員会にて人選中、旧幹事の中留任者及各職域中より選任せられた幹事三十名の役員を発表、次いで支部運営について左の通り議決した。

- 1、現幹事は各職域に於いて会員を勧誘すること
  - 2、会費は月額三十円として徴集を願うこと
  - 3、春秋二回総会並に懇親会を開くこと
  - 4、学報に支部会員の入会状況を掲載すること
- また統一して四月二十七日辯護士会館にて大阪支部再建準備委員会を開催した。

## 石 川 支 部

五月十四日正午より金沢市小將町の支部において支部総会を開催、折から來沢中の神屋敷氏より母校の近況を聞き、関西大学学報の復刊を機として支部の再興を図ることとし、里見復二氏より能登地区校友の活動状況について披露あり、今後校友は相寄り相扶けて母校の譽を高めることを誓い、今夏は、能登和倉にお

いて総会を開催することを約して散会した。

## 福 井 支 部

校友会福井支部では、日ごろ何彼と連絡のある者のうち内藤支部長はじめ八名が五月二十四日午後五時より福井市、縣開拓会館に集合、支部再建について話し合い、近く総会を開いて校友の團結をはかり、母校の發展に寄與することを申合せ九時散会した

出席者―支部長内藤哲志、小寺藤作、千田林作、御堂河内四市、山口俊雄、宮田一良、中村龍公、長崎芳雄

## 富 山 支 部

昭和二十五年年度支部総会を五月廿一日富山市西町丸三食堂において開催、早急に事を進んだ關係で集つたもの古屋東、安田倫藏、細谷正士、大島潔、吉田重行、釣谷巖、延谷謙三、矢内原和一の諸君であつた。

古屋支部長の挨拶について安田常任幹事より会務の報告、会員の消息について報告あり、細谷氏より大学よりもたらした母校並に校友会の現況報告あり、全國区参議員藤波候補の紹介、極力応援することとし、役員改選の結果左の通り決定した。

支部長 古屋 東、副支部長栗山基一  
常任幹事 安田倫藏（吳東地区）古城  
野一、延谷謙三（富山地区）米田実  
（吳西地区）

## 計理學及び稅務代理士業界と

## 本 學 校 友 の 近 況

ドツデラインに準據する健全財政の確立保持や、シャウプ勧告に基く稅制の改革をめづつて、産業經濟界の最大関心事は金詰の打開と稅金問題であり、這般の参議員選舉に際しても各政党的政策として大きく取上げられた主なるものとして稅金問題、金詰対策、中小企業対策が挙げられ、又第七國會の終幕に於いて新憲法下最初のでき事として衆議院の可決した法案を参議院が否決して、遂に流産となつたのも地方稅法案である。それ程に現在の國民は稅の重圧に苦しみ、稅金による資金の引揚げに悩み、嫌が上にも會計經理の整備による合法的合理的企業經營と、成果計算の嚴正算定による適正納稅及び金融対策を要する外に更に企業資本維持の手段として名目所得架空利益を排除し、減價償却の適正化を図り課稅の公平合理化を期するため、一昨年來經濟學者、會計學者及び實業家等の要望となつていた資産の再評價法と共に第七國會で成立した所得稅法、法人稅法、相続稅法、富裕稅法等が今春來順次公布施行となり朝野競うてその研究が続けられ、或は講習会或は研究会或は座談会の如き催し が連日各所で行われ、本学天六学会

に於いても六月三日及七日は日本計理士会大阪支部主催で又六月五日は大阪稅務代理士会主催で大阪國稅局より講師を迎えて朝の九時から夕刻五時まで熱心に會員の講習研究会が続けられている状態である。

目下斯業に於ける校友の現狀は日本計理士会大阪支部（大阪府、奈良縣、和歌山縣）は會員四三〇名中の四分の一を校友で占め、その役員陣當に校友の進出は左の通りである。

本部副会長常任理事大阪支部長 長柄金吾、本部理事大阪支部副支部長 鶴岡金次郎、本部理事大阪支部常任幹事 羽賀一郎、本部理事大阪支部幹事には白井種雄、森田泰、本部代議員大阪支部幹事 中谷政男、森辰巳、鈴木庄太郎、松中忠由、寺浦義隆、柴田松太郎、大阪支部幹事 浅山敏夫、北坂正三郎、國分吉廣、藤井藤三郎、卜田章之助、その他委員会委員は省略

又大阪稅務代理士会に於ける校友は左の通りとなつてゐる

会長兼連合会副会長 藤原龍太、副会長 廣美都雄、常任理事 藤井藤三郎、小川嘉雄、監事 深井喜代史、川口清相、談役 瀧脇健一

# 大學職業局の活動

学生と卒業生の職業斡旋は大学としては重要な機能の一つであるが、本学では先日ハーバード、コロンビア、エール其他米國一流大学の職業局に大学職業局の組織、機能及計理に關して照會し、その参考資料の送附方を依頼したところ先ずハンター女子大学とエール大学から返覆が來た（但、詳報及出版物等の資料は未着）次に、前記職業局活動の一端を紹介する。

- 一、紐育市立ハンター女子大學職業局
- (一) 計理關係、經費一切は納税者たる市民の負担による大学の予算から支出される。学生は無料で職業局の奉仕を受け、その受けた報酬は全部自分のものとなる。
- (二) 在学中に就業し得る職業（性質上当然時間極め雇傭となる）の種類
- (1) 夕方前の子供のお相手、時には病人の附添い
- (2) 夜間（夕方及宵）両親外出中の子供の看護とお相手此の場合職業局としては斡旋するべき学生（婦人）が、夜の街路をあまり長く独り歩きすることのないよう依頼者の家からあまり遠くない所に住んでいる事を必要條件としている
- (3) 家庭教師、之は大部分は上級生で、家庭教師たることを許される当該学科を専攻している者に限られる
- (4) お茶或は夕食の会の給仕

- (註) 晚餐会ではなく略式のもの
- (5) 音楽会、講演会等の案内係
- (6) 午後晚く、或は夕方、或は土曜日の賣子
- (7) 一日二、三時間の事務員
- (タイピスト、速記、簿記、識訳)

(三) 卒業生の就職斡旋、殆ど總ての職域分野に涉つて斡旋される。即ち教職、社会事業、會計、秘書、識訳、或種の美術、科学研究、組織管理等々。事実、大學級の教育訓練が必要と思はれるあらゆる分野の職業に斡旋され就職している。

二、エール大學學生職業局

- (一) 機能、本職業局に於いては、他の大学では夫々独立の部局が行つて行つてゐると思はれる数種の機能を一手に行つてゐる。即ち、
- (1) 財政的援助（奨學資金、貸與金及自活雇傭）
- 註：自活雇傭とは、學費と生活費を賄ふしめる爲に、大學が學生を直接雇傭することであるらしく、詳細は後日判明する見込
- (2) 就職相談及斡旋
- (3) 人事調査及統計による奉仕

以上の奉仕活動は毎年發行される學生職業局年報に詳記される。奨學資金貸與金及大學雇傭等を通じて在學生に與えられる財政的援助に就ては、別に「學生の自活」と題する小冊子を發行している。

前記の年報と小冊子は、事務樣式雜形等と共に近く到着の予定である。

- (一) 計理關係、本局の計理は、一部寄附金により賄ひ、不足分を大學予算の一部として一般歳入から配賦される定額予算によつてゐる。(T・O生)

## ジョン・ネヴィル・ケインズ博士の急逝

有名な經濟學者ジョン・メイナードケインズ卿 (Lord John Maynard Keynes, 1883—1946) の父にして、優れた論理學者兼經濟學者ジョン・ネヴィル・ケインズ博士 (Dr. John Neville Keynes) は昨年十一月十五日ケンブリッヂに於て急逝せられた。謹んで哀悼の意を表するとともに、同博士の略歴を紹介する。

ケインズ博士は一八五二年八月英國ソールズバリ (Salisbury) に生れ、昨年九十七才の高齡であつた。ケンブリッヂ大學卒業後、同大學道德學講師となり、二十七年の長きにわたつて講義を續け（一八八四—一九一一）、その後も同大學の記録係 (Registrar) としてその發展に寄與し（一九一〇—二五）、現に同大學ペンブroke・カレッジ (Pembroke College) の名譽校友である。斯くの如くに博士はケンブリッヂ大學にその生涯を捧げた典型的學者であつた。

博士は本來論理學者として知られ、その代表的著書「形式論理學の研究と演習」(Studies and Exercises in Formal Logic, 1884) は出版以來數十年を経過せる今日に至つてもなほその生命を保ち、近年にも版を重ねてゐる。以て同書が判明するであらう。

猶博士は英國道德學特別委員會委員長（一九〇六—一二）にも就任せられた。博士はまた可成り以前より經濟學にも関心を寄せてゐられたのである。即ち博士は有名な經濟學者マーシャル (A. Marshall) と親交があり、屢々手紙も交換せられてゐた。博士の經濟學への関心も恐らくこのマーシャルとの關係を通してあり、彼の經濟學大成に側面より援助した一人と推察せられる。經濟學に關する博士の業績としては「經濟學の範圍と方法」(Scope and Method of Political Economy, 1891) があるが、本書は方法論に關する文獻に欠ける同國經濟學界にとつてその唯一の著書として高く評價せられてゐる。猶博士は英國經濟學及び政治學特別委員會委員長（一九〇八—二〇）にも就任せられ、その發展に努力せられた。

博士の夫人も英國に於ける代表的婦人の一人として有名であり、博士の家庭は同國に於ける最も教養高き家庭であつた。その令息に故メイナード卿の如き偉大なる經濟學者が生まれたのも決して偶然ではない。ともあれ博士はこの偉大な經濟學者の父として恵まれた人である。たゞ運命の惡戯か、數年前この令息に先立たれたことは博士にとつて誠に不幸なことであつた。僅か數年間父子ともに急逝せられた。同家の不幸容するに余りある。經濟學關係者としても誠に残念なことであり、父子二代にわたる經濟學への貢獻に対し感謝する次第である。(N・Y生)

**General works. Journalism.**

- New York Public library: After one hundred years, 1848-1948. N. Y. 1949.  
 Larousse: Nouveau petit Larousse illustré. Nouvelle éd. Paris 1950.  
 Matthews, C. C.: A dictionary of abbreviations. Lond. 1947.  
 Mott, Frank Luther: American journalism; a history of newspapers in the United States through 250 years. 1690 to 1940. N. Y. 1949.  
 Whitaker's almanack, 1949. Lond. 1949.

**Philosophy.**

- Runes, D. D.: The dictionary of philosophy. N. Y.  
 Runes, D. D.: Twentieth century philosophy; living schools of thought. N. Y. 1947.  
 Hocking W. E., etc.: Preface to philosophy; textbook. N. Y. 1947.  
 Joad, C. E. M.: Guide to modern thought. Lond. 1948.  
 Miller, H.: An historical introduction to modern philosophy. N. Y. 1947.  
 Russell, B.: History of western philosophy. Lond. 1948.  
 Sellars, R. W. etc.: Philosophy for the future; the quest of modern materialism. N. Y. 1949.  
 Maritain, J.: The dream of Descartes. Tr. by M. A. Anderson. N. Y. 1944.  
 Barth, K.: The only way; how can the Germans be cured? N. Y. 1947.  
 Sartre, J. P.: Existentialism. Tr. by B. Fechtman, N. Y. 1947.  
 Harper, R.: Existentialism, a theory of man. Cambridge, U. S. 1948.  
 Croce, B.: Politics and morals. Tr. by S. J. Castiglione. N. Y. 1945.  
 Jastrow, J.: Freud; his dream and sex theories. Cleveland 1948.

**History.**

- Latourette, K. S.: A short history of the Far East. N. Y. 1947.  
 Latourette, K. S.: The history of Japan. N. Y. 1947.  
 Latourette, K. S.: The Chinese; their history and culture. 3d ed. N. Y. 1949.  
 Hayes, C. J. H., etc.: History of Europe. N. Y. 1949.  
 Spocor, I.: An introduction to Russian history and culture. N. Y. 1949.  
 Fuller, J. F. C.: The second world war, 1939-45 a strategical and tactical history. Lond. 1948.  
 Wood, C.: A complete history of the United States. Newly rev. ed. Cleveland 1947.

**Politics. Law.**

- White, W. W.: White's political dictionary. Cleveland 1948.  
 Bowle, J.: Western political thought. Lond. 1949  
 Maxey, C. C.: Political philosophies. Rev. ed. N. Y. 1949.  
 Plato: The republic. Cleveland 1946.  
 Wright, D. M.: Democracy and progress. N. Y. 1948.  
 Bisson, T. A.: Prospects for democracy in Japan. N. Y. 1949.  
 Ogg, F. C. and Zink, H.: Modern foreign governments. N. Y. 1949.  
 Beard, C. A.: American government and politics. 10th ed. N. Y. 1949.  
 Munro, W. B.: The government of the United States, national, state and local. 5th ed. N. Y. 1949.  
 Celdart, W.: Elements of English law. 4th ed. Lond. 1948.  
 Chimes, S. B.: English constitutional history. Lond. 1949.  
 Vyshinsky, A. Y.: The law of the Soviet state. Tr. by H. W. Babb. N. Y. 1949.  
 Jessup, P. C.: A modern law of nations. N. Y. 1949.  
 Nussbaum, A.: A concise history of the law of nations. N. Y. 1950.  
 The United Nations association yearbook, 1948. Lond. 1948.  
 UNESCO: Study abroad. International handbook. Vol. 1 & Supplement. Paris 1948.

**Economics.**

- Fairchild, F. R., etc.: Economics. 3d ed. N. Y. 1948.  
 Fairchild, F. R., etc.: Elementary economics. Vol. 1-2. 5th ed. N. Y. 1948.  
 Haney, L. H.: History of economic thought. 4th and enlarged ed. N. Y. 1949.  
 Wicksell, K.: Lectures on political economy. vol. 2. Money. Lond. 1946.  
 Harrod, R. F.: Towards a dynamic economics. Lond. 1948.  
 Stigler, G. J.: Production and distribution theories, the formative period. N. Y. 1949.  
 Keynes, J. M.: The general theory of employment, interest and money. Lond. 1949.  
 Klein, L. R.: Keynesian revolution. N. Y. 1947.  
 Harris, S. E. (ed): The new economics. Keynes influence on theory and public policy. Lond. (1949)  
 Pigou, A. C.: Income; an introduction to economics. Lond. 1949.

# 「學報」についてお知らせとお願ひ

- 一、學報は年十回(八月、十二月休刊)毎月十五日に発行いたします。
- 一、學報誌代は校友会費とは別に実費年二〇〇円(送料共)とし、四月より翌年三月までを一年度といたします。
- 一、昭和二十五年に限り五月(復刊三二二号)より二十六年三月までを一年といたします。
- 一、従つて年度中途で申込みをお受けしましても、年度初めからの學報をまとめてお送り致します。
- 一、校友会支部又は校友の諸団体で、まとめて御申込み下さる際は、一部は会に寄贈いたします。
- 一、學報の御申込みは左記宛誌代をそえて御願ひします。

大阪中央局区内、東淀川区長柄中通二

關西大學 學報局

關西大學教授 高木秀玄著

## 近代理論統計學

A5判 上製 二五〇頁  
定價二七〇円(二二五円)

本書は從來のドイツ流の悉皆的大量觀察法と、英米流の標本調査法との統一を理論づけたものであつて、統計學、エコノメトリックスの研究に志す學生のみでなく、官私の統計業務に従ふ人々の好個の參考書である

發行所

大阪市大淀區長柄中通二

紅帆社

電話堀川五一七〇番

一、目上段より一、

差止を請求すること(Unjunction)がで  
きるのである(改二八〇)また取締役と通  
じていぢるしく不正な発行價額で株  
式を引受けたものは、会社に対し公正な  
発行價額との差額に相当する金額の支拂  
を爲す義務を有するのであつて(改二八  
一、一)、實質的には株式引受人の追出  
資(assessment)の義務を認めているの  
である。この会社の請求権については、  
株主の代位訴訟(Representative)の制度  
を認めている(改二八〇條ノ一、二項)  
次に無額面株式を発行したときは、会  
社資本の構成はどうなるか。会社は額面  
株式のみを、あるいは無額面株式のみを  
またはこれら双方を併せ発行することも  
可能であつて(改一九)、額面株式のみ発  
行したときは、会社の資本は原則として  
株金総額を以て構成し、無額面株式のみ  
を発行したときは、原則としてその発行  
價額の総額が資本を構成することになり  
、またこれら双方を併せ発行したときは  
右の株金総額と発行價額の総額との合計  
額をもつて資本を構成することになる、  
(改二八四條)。けれども無額面株式につ  
いては、その発行價額のうち一部を資本  
に組入れずに、これを拂込剰余金(Paid-

in surplus)として、資本準備金に積立て  
ることを許しているのである(改二八  
二)。すなわち、会社の設立に際して発  
行する無額面株式については、発起人全  
員の同意をもつて、定款に定めたその最  
低発行價額を超える部分のうち、発行價  
額の四分の一を超えない額を拂込剰余金  
とし(改一六八條ノ二、三項)、また会  
社成立後発行する無額面新株式について  
は、取締役会の決議をもつて、その発行  
價額の四分の一を超えない額を拂込剰余  
金として(改二八〇條ノ二、四項)、これ  
を資本に組入れないことにすることがで  
きるのである。(完)

昭和二十五年六月十日印刷  
昭和二十五年六月十五日發行

關西大學學報 第二三二號

一年誌代実費二〇〇圓(送料共)

大阪市中淀區長柄中通二

關西大學學報局

大阪市中淀區長柄中通二

印刷者 株式ナニワ印刷所

西井 鐵 監

大阪市東淀川区長柄中通二

發行所 關西大學學報局

電話堀川五一七五番  
大阪二六七二番

關西大学人文科学研究所編集

# 人文科學論集

各号定價一〇〇圓  
送料十二圓

## 第四號 內容

自救行爲に關する比較法的概観……………明石三郎  
倫理學における社會性と実存性……………田中三郎  
三帝盟約の崩壊について……………安藤俊雄  
資本主義初期における「産業資本対商業資本」の問題……………矢口孝次郎  
社會主義社會に於ける經濟計算に關する一考察……………安田信一

## 第一號 (昭和二十四年七月十五日發行)

連帶社會的主權論……………岩崎卯一  
家事審判の効力……………山木戸克己  
アリストテレス存在論の問題とその出發点……………岡野留次郎  
小説家モームについて……………進藤浩二  
萬葉集「寧樂宮」考……………吉永庄次郎  
眞の証券民主化……………今西登郎  
上代大豆考……………橋方貞亮  
音聲音符の提唱……………橋田慶藏

## 第二號 (昭和二十四年十二月十五日發行)

主權概念について……………中谷敬壽  
超法的符合説について……………植田重正  
月神と地靈……………高橋盛孝  
スワイフトの詩について……………梶原秀男  
ヒックス利子理論の一考察……………森屋太俊  
海上賣買形態の時代的變遷について……………賀屋俊雄

## 第三號 (昭和二十五年三月十五日發行)

國會の権限と没落……………櫻田健一  
神々の發展と没落……………横田健一  
ジョセフ・ペディエと「ローランの歌」の起源……………三木治  
近世文語史より觀た中世ドイツ官用語の發達とその意義……………福本喜之助  
必要労働と剰余労働……………杉原四郎  
ハタイヤーの經營費用範疇論について……………植村郁太郎  
「バロー」表の追加……………河村信一

關西大學學報 第二二三號 (昭和二十五年六月十五日發行)

著 生 先 郎 太 川 森 士 博 學 濟 經 授 教 學 大 西 關

# 銀 行 職 能 論

(五三送)圓〇五三 價定 頁〇二三文本 判5A

瀨川橋村著  
女子行員のあり方  
P6 制附共八頁  
定價五〇四錢六文

高梁清著  
青少年行員執務心得  
P6 制附共六頁  
定價三五四錢六文

中津茂樹著  
銀行機能の新しい理解  
P6 制附共八頁  
定價五〇四錢六文

岡耕作著  
取引開拓の新構想  
P6 制附共八頁  
定價五〇四錢六文

大阪市東区十二軒町八  
振替大阪一八四〇九  
産業經濟社